

平成 20 年 12 月吉日

領域 2 の皆様へ

平成 20 年度 10 月から領域 2 の代表を務めることになりました。どうぞよろしくお願ひします。

領域 2 は、物理学会の中でも非常に活発な学会活動のある部門です。プラズマは、非常に幅広く研究が行われている中で 物理学会は、ほかのプラズマ関連の学会に比べると、基礎、物理研究の色が強くきめの細かい議論が行われ、物理現象の説明が定性的且つ定量的に行われることが重要視されており、国内のプラズマ研究の基礎部分を支えて来ていると言えます。

こうした活動対象は、第一キーワードである (1) プラズマ基礎、(2) プラズマ科学 (応用を含む)、(3) 核融合プラズマ、(4) プラズマ宇宙物理を見れば明快に示されています。こうした枠組みの中、如何に領域 2 を発展させていくのかを考え実行に移すことが役員一同に期待されています。そのためには、一般講演の充実はもとより他分野のプラズマ研究者も含むチュートリアル講演、他領域との合同セッションや招待講演の充実が挙げられます。またプラズマに関連する学会との連携の実現も視野に入れる必要があるでしょう。皆様からの意見が領域 2 を活性化します。

領域 2 では、運営会議を学会ごとに開催しております。また懇親会も設けるように努力いたします。そうした機会に是非とも皆様からのご意見を役員にお聞かせいただき、議論いただきますようお願い申し上げます。

追記「プラズマ関連学会の連携への模索」

次回 2009 年 3 月の立教大学の年会では、8 学会の合同シンポジウムを開催しプラズマ関連学会の連携を議論します。お誘い合わせの上是非ご参加いただきますようお願いいたします。(2009 年年会プログラムご参照下さい)

プラズマ自体は、(1) 応用物理学会、(2) 電気学会、(3) プラズマ核融合学会、

(4) 静電気学会、(5) 放電学会、(6) 天文学会、(7) 地球電磁気・地球惑星科学連合という 7 学会でも大きく取り上げられておりプラズマに関する連合も呼びかけが始まっています。

これは、国内にこれだけ多くのプラズマ関連の学会が存在しそれぞれが非常に活発な学会活動を展開しており、是非相互の活動内容を紹介し合い、お互いの研究の進展に役立てるべきだという発想に基づいております。

こうした関連する連携の動きは、領域 2 からだけではなく、プラズマ・核融合学会や応用物理学会、日本学術振興会プラズマ材料科学第 1 5 3 委員会、電気学会からおこなわれており 1980 年名古屋でスタートした International Conference on Plasma Physics が、2007 年夏九州でプラズマ・核融合学会の主催で開催される運びとなったり、2009 年 3 月には、応用物理学会、プラズマ・核融合学会、日本学術振興会プラズマ材料科学第 1 5 3 委員会の主催である第 3 回プラズマ科学シンポジウム 2009 が開催されようとしているなど関連の活動が活発化しています。こうした連携の動きに物理学会領域 2 が遅れることなく柔軟に対応することも領域 2 の活動発展に繋がることと信じます。

田中 和夫

大阪大学大学院工学研究科

電気電子情報工学専攻

高強度レーザー工学領域